

## 雷に負けた屁こきじいさん

まだ 耕地を村と呼んでいた頃の話です。新田村（上手子林）に屁に自慢のお百姓さんがいました。働き者で信念の強い人でしたから、みんなから信頼され、手伝いの作男や近所の人のめんどうをよくみました。毎日手伝いの作男と農良仕事を一生懸命やるのが日課でした。「屁は健康のもとじゃ」と、大きな「おなら」を「ブーツ」と鳴らすのが得意でした。

ある日のこと、お手伝いの作男と田の草とりをしていました。すると「ザワザワ」と風が吹き出し、黒い雲がもくもくと押し寄せてきたかと思うと、ピカピカゴロゴロ荒れ狂ったような雷になりました。田畑で働いていた百姓たちは一目散に逃げ帰りました。作男は取り残こされて、ますますおそろしくなり「だんなさん すでっけえ雷様だから早くけるべじゃねえかね」とふるえながら田ん中から引き上げようとする。「なアんでこの位の雷様じゃ おれの屁の方がでっけえさ たまげるもんか」と言っで一発思いつき「ブブブーツ」と鳴らしました。けれども耳もかさず

に作男は夢中でかけ出しました。するとあたりがパッと目がくらむほど明かるく光ったかと思うと「バリバリツ」とすごい音と共に「バシツ」と地ひびきがありました。振り返って見ると、だんなの姿は消えていました。作男は家に逃げ帰り「てえへんでやんす てえへんでやんす」とハアハアしながらその話をしました。まもなく雷がやんで急いでみんなでかけつけると、田ん中で黒こげになっていました。自慢の屁こきじいさんも、ついに雷に負けてしまったのです。家族は大変力を落としましたが、二度とこのような悲しい出来事がないようにと命をうばった雷様を立派な社に祀りました。見事なこけらぶきの雷電宮様は、今も当時のものですが、再びあってはいけない気持ちを、精一杯心をこめて造ったとみえて豪華な社です。

それからは、毎年五月一日に神主様に祈とうをしてもらっています。今では新田耕地の雷電様として祭礼を行っています。

そして平和で幸せな新田耕地の、今でこそ楽しく笑える話となって、絶えることなく屁こきじいさんの語り部は続いています。

